





来た…





イ、イカされた…っ

この私が…
こんなにも
あっけなく…っ



絶頂の余韻が長い…
ゆっくり絶頂し
続けているようだ

しかも
また一層愛撫が
優しくなった

決して強い快感は与えず
優しく繊細に
心地いい快感を
与え続けるつもりか…



む

数刻後

じゅ

~~~~~  
♡

ゆ

い

びしょ

わあ  
あ



びしょ

びしょ



びしょ



はぁ...

はぁ...

はぁ...

クッ

クッ

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

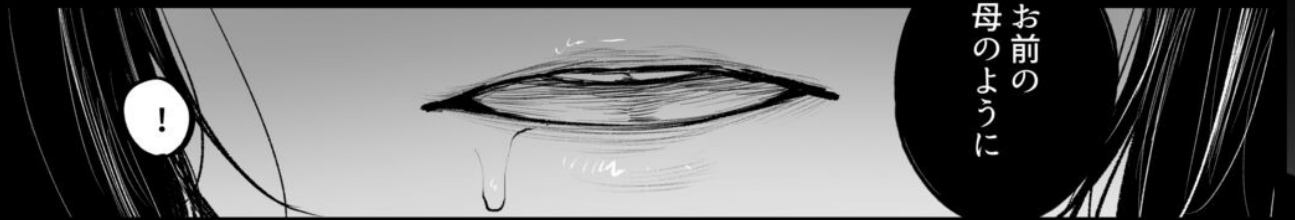
クッ

クッ





堕ちろ



お前の  
母のように

!



消えろ

不愉快だ




…悪手だな



母も…

こうやって堕としたのか…



父の話では  
45時間  
私はあの蔵にいたらしい

あれから三年  
数々の妖共を  
奴隷にしてきたが

未だ  
ナカトノカミを  
殺すに足る者には  
出会えていない

百年以来の生還者  
私は契約紋を携え  
遂に家業を継いだ

アレを殺すに至るまで  
祓屋家業を  
私は続けるのだろう







おっ

おっ

おっ

おっ

ス

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ


おっ

牙が  
ナカトノカミに  
屈服してから  
永遠とも言える  
時間が経過していく

絶え間なく  
犯されていく中  
悦び以外存在しない  
時間を永遠に過ごすのだ

子宮はだらしなく口を開け  
抵抗することなく  
精子を受け入れる

女ですらなくなり  
牝となった身体は  
いづれナカトノカミの  
子すら孕むだろう



母の仇であるはずの  
ナカトノカミに  
自ら腰を振り  
媚びる姿は

あまりにも滑稽で  
ナカトノカミにとって  
都合の良い  
性玩具に過ぎないのだろう